



6月27日の土曜講座の時間を利用して第2・3学年を対象に小論文講演会を実施しました。今回の講演会は6月の「みらいプロジェクト」の取組として企画したもので、3年生にとっては昨年の2学期以来の2回目の講演でしたが、2年生としては入学後初めての講演となりました。

第2・3学年を対象に小論文指導の第一線で御活躍の講師をお招きし、入試における小論文の現状とノウハウを知りつくしておられる立場から、良い小論文を書くための着眼点についてお話しいただきました。本題では、入試の現状に始まりわかりやすい小論文の書き方、テーマ設定のポイントから原稿用紙の使い方に至るまで丁寧に御指導いただきました。



第2学年の講演では講義の途中で生徒を指名されて質問に答える場面があるなど、終始緊張した雰囲気の中、変化に富んだ充実した機会となりました。

近年、推薦入試・AO入試などを中心にその重要性が高まりつつある小論文課題に関して、的確なアドバイスをいただき、今後の小論文対策に向けての弾みがつくと共に7月9日(木)に第2・3学年を対象に行われた小論文演習に向けても貴重な学習の場となりました。

今後においても講演会から得た成果を是非とも生かして納得のゆく結果を残して欲しいと思います。

「みらいプロジェクト」
小論文講演会の取組

対象学年	連携	講師	講演テーマ
第2学年	桐原書店	中村 真弓氏	「良い小論文を書くための条件」
第3学年	河合塾	神坂 直樹氏	「良い小論文を書くために」

福高は、あなたの「みらい」を応援します！

生徒感想文
～アンケートより～

小論文講演会を通して学んだこと
2年生



小論文は作文と違い、私の意見を周りの人や社会と関連づけて考察し述べるものだとわかった。小論文を書くことでポイントとなってくるのが課題の意図をきちんとつかむことである。字数制限をチェックするのはもちろん、何を最終的に書けばよいか、また何をふまえて書くかなどの確認をすることによってミスを防げる。福高では小論文トライアルがあるので、是非実践で生かしたい。

課題で問われていることを正確に掴んでいなかったら、いくらよい小論文が書けていても駄目になることがよくわかりました。何が問われているかぐらい、文章を読めば理解できると思っていましたが、何に関連づけて書くのか、というところが意識できていなかったように思うので、今日話を聞いて良かったです。また、思いついたことをダラダラ書くのではなく、1つに絞って書くことが大切であることもわかりました。多く書けば書いただけいいのではなく、内容がしっかりしているかどうか評価されることもわかりました。内容を深くするには誰でも思いつくようなことではなく、違う角度から捕らえたりしなければならぬので、多くの「知識」が必要だと思いました。



3年生



小論文を書く際の、序論・事例説明・事例分析・結論の書き方を知った。構成をするときには設例、独自例をあげ、あとに経験、見聞を書いて仮想を入れる必要があることが分かった。BeforeとAfterの文では確かに全然違って、後の方が読みたくなるような文だった。特に事例説明と事例分析をしっかりしなければならぬことがよく分かった。少しでも意識してこれから小論文を書いていこうと思った。

当たり前だと思うことも書く、日常的な表現は避ける、序論は簡単に、具体例は丁寧にということを生んだ。

事例を詳しく書くことが大切なんだとわかった。それをするかどうかでリアリティーにも関係してきて、読む人が信じてくれるか、文章を評価してくれるかにつながるんだと分かった。また、書く順序など、ちょっとした工夫で評価につながることを参考になった。上手な文章を真似することから始められたらいいと思う。

